





代表取締役社長  
石田 博一

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社グループへの厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2023年3月期第2四半期決算のご報告にあたり一言ご挨拶させていただきます。

当社グループは、長期ビジョン“**Century 2025**”を締め括る4か年中期経営計画[“**Century 2025**” Phase3]を始動しました。本計画は、これまで進めてきた「質」と「信頼」を高める取り組みを継続しつつ、新たに「社会のサステナビリティへの貢献」「働き方改革の加速」「次世代に向けた投資」を重点施策に掲げ、長期ビジョンが目指す「選ばれる」会社を実現していくものです。

計画初年度の2023年3月期は、その足掛かりを築く重要な1年間と認識しております。上半期は、資機材納期遅延等の影響により受注先における工程見直しが生じたこと等により売上高は前年同期を下回ったものの、建築設備事業を中心に受注高は大きく増加しました。減収の影響により利益も減少しましたが、採算性は高水準を維持しており、下半期において工事を着実に進捗させることで改善するものと考えております。

今後とも当社グループ事業へのご理解とともに、長期のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年12月

上半期のご報告と通期の見通し

当上半期の業績は、受注高が前年同期比で224億円と増加し、1,189億円となる一方、売上高は建築設備事業で資機材納期遅延等の影響で受注先における工程見直しが生じたこと等により、840億円から735億円に減少しました。利益面は、減収の影響により前年同期の実績を下回りました。

営業状況を事業別に振り返りますと、建築設備事業は、ビル空調衛生と産業空調の大型案件を獲得し、受注高を伸ばしたものの、一部工事の工程見直し等により減収減益となりました。機械システム事業は、受注高が堅調に推移したものの、期首繰越工事の減少により減収減益となりました。環境システム事業は、前年同期に獲得した大型案件の反動で受注高が減少しました。売上高も減少したものの、採算性の向上により

損益は改善しました。

当上半期末の繰越受注高は、当期首から454億円増加し、1,961億円と豊富な仕事量を確保しております。

通期業績については、受注高を期初予想から100億円を上方修正し、2,100億円(前期比3.8%増)、その他については、期初予想を据え置き、売上高2,000億円(同3.5%増)、営業利益95億円(同4.2%増)、経常利益100億円(同1.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益69億円(同6.3%増)としております。

中間配当は、期初予想の通り1株当たり35円とさせていただきます。期末配当についても同額の実施を予定しており、年間配当額は合わせて同70円となる見通しです。

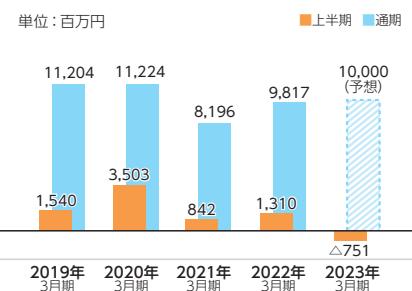
受注高



売上高



経常損益



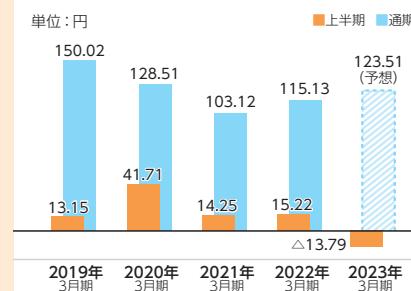
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益



1株当たり純資産額



1株当たり四半期(当期)純損益



取り組み事例

1

## 半導体産業を支える 三機工業のクリーンルーム

当社は、1960年代から精密機器の品質管理のために設置される工業用クリーンルーム設備の研究開発に注力してきました。1970年代以降、コンピュータに使用される半導体素子、集積回路の生産工場が数多く建設されるなか、当社も国内外でクリーンルーム施工の実績を重ね、業界トップクラスの地位を築いてきました。培ってきた技術やノウハウは、医療・創薬機関や生物実験室などのバイオクリーンルーム設備にも展開し、医療や創薬、研究開発の発展にも寄与しています。昨今、半導体の急速な需要拡大もあり、クリーンルーム設備の重要度はますます高まり、当社にとっては成長の機会となっています。中期経営

計画“Century2025”Phase3においても半導体等の製造施設向け産業空調分野の体制強化を重点施策として掲げています。引き続き、長年にわたって培ったノウハウや高い技術力を活かし、お客さまのニーズに応じていきます。

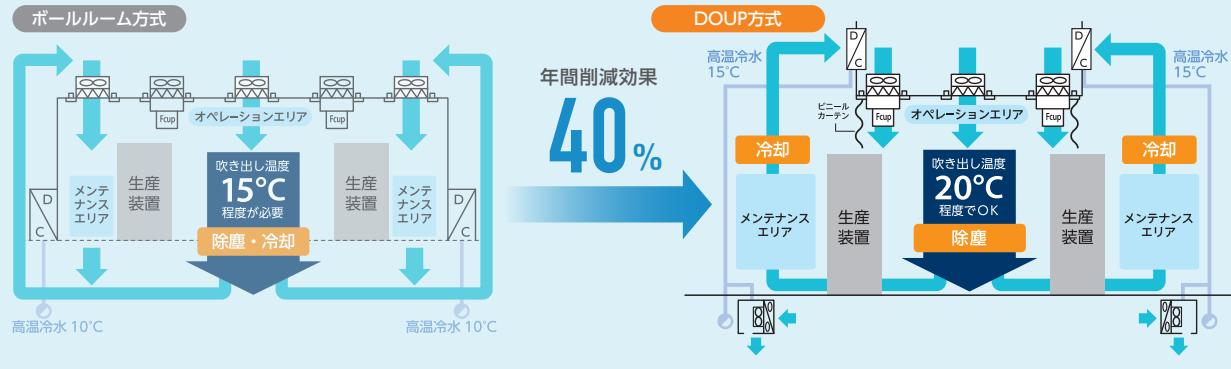


DOUP®  
(ドゥーアップ)

## 半導体クリーンルーム向け省エネ空調システム

- ①空調空気を効率的に活用し、設備動力を年間40%削減。
- ②ちりやほこりの拡散を抑制し、高い清浄度を維持。

- ③冷却に必要なコイルの設置スペースが不要、フロア面積を有効活用。
- ④2018年度に開発、市場展開中。



取り組み事例

2

## 物流業界の課題解決に寄与する 仕分け設備／システムの開発

当社は物流業界向けに高性能な仕分けを実現する製品の開発・販売をおこなっております。eコマース市場の急拡大により業界を悩ませる業務過多・人手不足の解消を支援するとともに、購買者への迅速な商品配送に寄与しています。

### PICK UP 1 リバースソーダ™

#### 仕分け設備の性能向上・省スペース化を実現

#### POINT

- ①仕分け設備の性能向上と省スペース化に貢献。
- ②キャリアを水平および垂直方向に旋回できる  
独自機構により、荷物の仕分け間口を上下2段・  
左右両側に設置でき、一度により多くの仕分けが可能。
- ③当社製品従来比約40%の省スペース化を実現。
- ④2020年度開発、2021年度販売開始、市場展開中。

省スペース化  
40%  
当社従来比



動画はこちら



### PICK UP 2 メリス・ビアンカ™

#### 運搬・仕分け作業の自動化・省力化を支援

#### POINT

- ①物流センター内での荷物の運搬・仕分け作業の自動化・省力化に対応。
- ②上位システムが複数の搬送型ロボットの位置と動きを常時把握し、  
最適ルートで高速搬送。
- ③従来の固定式機構とは一線を画したステーション式投入システムにより、  
導入が容易で拡張・移設がスムーズ。
- ④2021年度開発、当社R&Dセンターにて検証中。



搬送型ロボットの外観▶

動画はこちら



## 高度な手術にも対応可能な環境を構築

### 杏林大学医学部付属病院中央病棟

東京・多摩地域の中核的医療施設として機能する杏林大学医学部付属病院は、より高度な手術に対応可能な環境を構築すべく、中央病棟の増築をおこないました。同工事において当社は、空調・衛生・電気・情報設備の設計・施工を担当しました。

空調設備は、熱源との一体化で高精度な温湿度制御と省スペースを両立する空冷直膨式エアハンドリングユニット(外気処理空調機)を設置。温湿度調整した外気を高性能除塵フィルターを通して給気し、清浄度が高い空気を自動制御で供給します。また同フィルターを内蔵したクリーンパッケージエアコンにより、共用部でも高い清浄度を保ちつつ、個別エリアを温度調節できる仕組みを構築。陰圧専用の排気ファンも導入し、手術室の陰圧・陽圧の切り替えによる感染症対策を可能としました。

衛生設備は既存の医療ガス設備の能力増強を図るとともに、酸素・笑気・窒素供給設備を構築。電気設備は、手術中に停電しても非常用発電機から電源供給を継続するシステムを



▲空冷直膨式エアハンドリングユニット(外気処理空調機)

整えた上で、停電が許されない医療機器への対応として無停電電源装置を設置しています。そして情報設備は、電子カルテやMRI画像、生体監視データなどの医療情報を送受するLANを中心に、手術室の通信システムを整備しました。

これからも当社は、エンジニアリングを通して医療施設における安心・安全な環境づくりに貢献してまいります。



▲杏林大学医学部付属病院の外観

#### 現場担当者の声



左から順に、東京支社空調衛生技術2部 仲岸達祐、ファシリテシステム事業部ネットワークソリューション部 寺田真吾、東京支社電気技術3部 井出一磨、空調衛生技術2部 征矢正章、電気技術3部 須藤秋良

今回の施工では、増築した病棟が稼働する既存病棟と隣接していたため、音や振動、機材や人の出入りなどに細心の注意を払いました。また、既存設備に関わるものの施工は、限られた時間内での実施が必要でした。そのため、事前確認の徹底と細やかなスケジュールを立ておこなうことで、リスクを低減しながら着実に施工しました。これからも当社は、より安全・安心で強固な病院運営ができる環境づくりに貢献してまいります。

#### VOICE

## 「AIごみクレーンシステム」をクリーンヒル天山に導入

### ごみクレーン操作の自動化により効率的・安定的な運転管理を実現

当社は、ごみ焼却施設でのクレーン操作を自動運転する「AIごみクレーンシステム」を開発しました。現在、同システムは、グループ会社である三機化工建設株式会社が運営管理業務をおこなっているクリーンヒル天山(佐賀県多久市)において稼働しています。

ごみ焼却施設では、労働者不足や運転管理のコスト削減に対応するため、自動化・省力化ニーズが高まっています。一方で、ごみ焼却施設の運営管理業務において、ごみのクレーン操作は、ごみピットに投入されたごみを焼却炉に投入する前に、ごみの種類や高さを判断し、クレーンを用いてごみを破袋・攪拌して均一化する必要があり、その判断や操作には作業員の高い経験値が求められます。

この度開発したシステムでは、まずステレオカメラによりごみが貯留されたピット内の画像を区画化し、ごみの種類と高さをそれぞれ画像識別AIと状況判断AIによりリアルタイムに認識。ごみの投入要求や搬入扉の開閉状態を情報として与え、

クレーンをどのように操作するか判断・指示します。

当システムの導入により、作業員の作業負荷を大幅に削減し、夜間のクレーン操作を手動でおこなった場合に比べ約60%の省力化を実現。効率的でかつ安定的な運営管理を確立することができます。

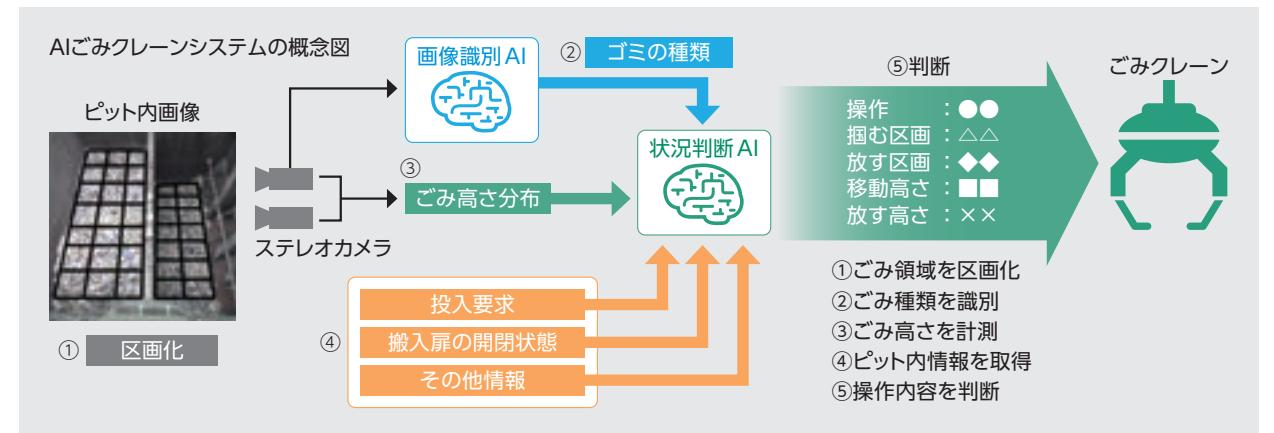
当社グループでは、「新たな社会価値の創造」をマテリアリティ(重要課題)の一つとしてかけており、これからも自動化省人化市場の拡大に取り組んでまいります。



▲自動操作の様子



▲システム画面



2022年3月期株主通信でご案内させていただいたアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今回は、皆さまから頂戴いたしましたご意見の一部をご紹介します。

Q 今後の株主還元方針を教えてください。

A 安定的かつ継続的な株主還元は中期経営計画“Century2025”Phase2に引き続き今後も重要なミッションです。4月より始動したPhase3でも配当を中心としながら、自己株式取得についても利益や配当の状況に応じて実施する方針です。

Q 脱炭素社会への貢献など環境に対する取り組みに期待している。

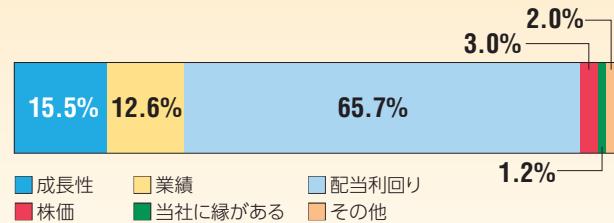
A 気候変動問題は当社事業と直結する課題であり、その解決に向け建築設備やプラント設備など、多様な分野で省エネ・脱炭素技術の活用・拡大に取り組んでまいります。また10周年を迎えた「SANKI YOU エコ貢献ポイント制度」においてCO<sub>2</sub>削減につながる提案営業を促進し、お客さまの事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献してまいります。

サステナビリティに関する取り組みはこちら <https://www.sanki.co.jp/csr>

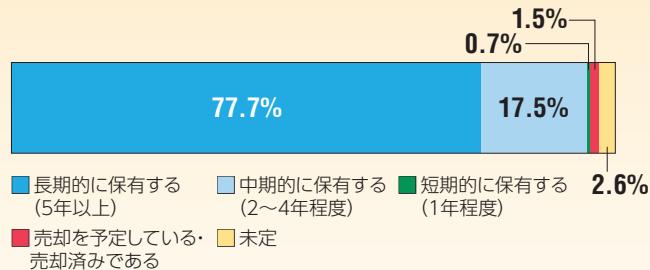


株主さまアンケート集計結果

Q 当社株式を購入・取得された際、最も重視したことは何ですか。(単一回答)



Q 今後の保有方針についてお聞かせください。(単一回答)



“Century 2025” Phase3 の目標

2022年度より新中期経営計画“Century2025”Phase3が始動しました。当社が創立100周年を迎える2025年度に向けて「質」と「信頼」をさらに高め、ステークホルダーの皆さまからもっと「選ばれる」企業を目指してまいります。

	Phase2			Phase3	
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 予想	2025年度 目標
売上高	2,076億円	1,900億円	1,931億円	2,000億円	2,200億円
売上総利益(率)	321億円 (15.5%)	287億円 (15.1%)	302億円 (15.6%)	315億円 (15.8%)	360億円 (16.5%)
経常利益(率)	112億円 (5.4%)	81億円 (4.3%)	98億円 (5.1%)	100億円 (5.0%)	120億円 (5.5%)

	Phase2			Phase3	
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 予想	2022~2025年度 経営目標
経常利益率	5.4%	4.3%	5.1%	5.0%	5.0%以上
配当性向	73.9%	77.6%	73.8%	56.7%	50%以上
1株当たり年間配当金	95円	80円	85円	70円	70円以上
自己株式取得	195万8千株	100万株	100万株	150万株	500万株程度*
ROE	8.6%	6.6%	7.0%	7.3%	8.0%以上
成長投資	—	—	—	—	200億円程度*

\*計画期間中の累計

株式の状況 (2022年9月30日現在)

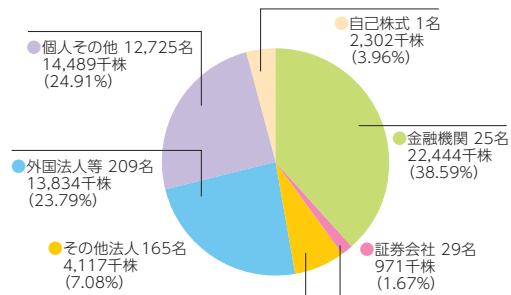
発行可能株式総数	192,945,000株
発行済株式総数	58,161,156株
株主数	13,154名

大株主 (2022年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,838	12.24
明治安田生命保険相互会社	5,440	9.74
大樹生命保険株式会社	3,134	5.61
三機共栄会	3,068	5.49
日本生命保険相互会社	2,324	4.16
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,224	3.98
三機工業従業員持株会	1,466	2.63
ジェーピーモルガンチェースバンク380684	955	1.71
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505001	944	1.69
MSIP CLIENT SECURITIES	918	1.65

(注) 当社は自己株式2,302千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況 (2022年9月30日現在)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日  
(2) 期末配当金 3月31日  
(3) 中間配当金 9月30日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めております。

公告掲載方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。(当社ホームページ <https://www.sanki.co.jp/>に掲載します。)

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)で行っております。

「配当金領収証」による中間配当金のお支払いについて 第99期中間配当金は、「中間配当金領収証」により、払渡し期間内(2022年12月9日から2023年1月10日まで)にお受け取りください。

上場株式配当等の支払いに関するお知らせ 「配当計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

会社概要

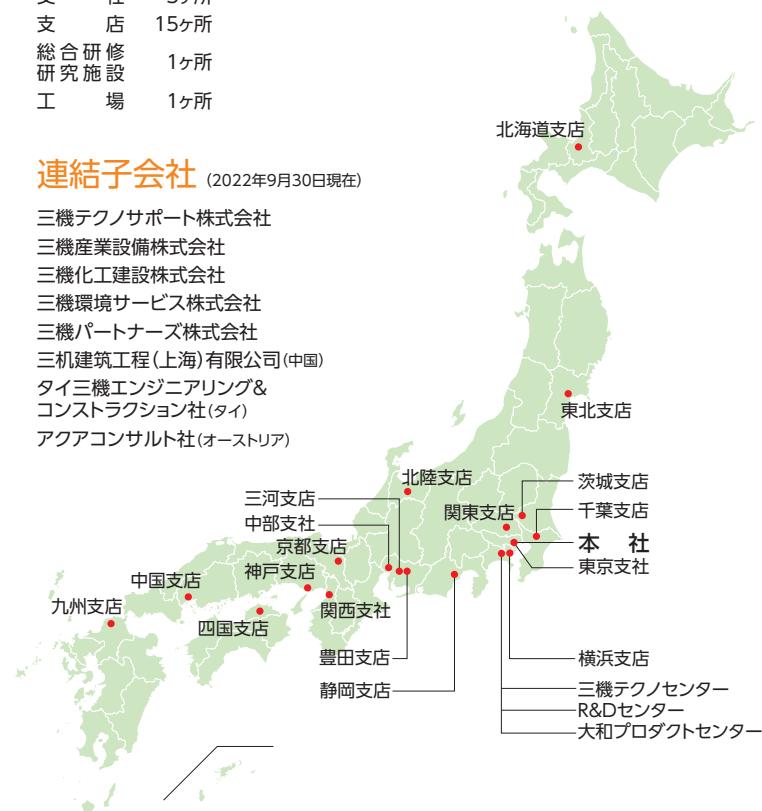
会社名 三機工業株式会社  
英文社名 SANKI ENGINEERING CO. LTD  
創立 1925年4月22日  
資本金 81億518万円(2022年9月30日現在)  
事業内容 建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業  
従業員数 連結 2,657名 個別 2,113名(2022年9月30日現在)

事業所一覧 (2022年9月30日現在)

支社 3ヶ所  
支店 15ヶ所  
総合研修研究施設 1ヶ所  
工場 1ヶ所

連結子会社 (2022年9月30日現在)

三機テクノサポート株式会社  
三機産業設備株式会社  
三機化工建設株式会社  
三機環境サービス株式会社  
三機パートナーズ株式会社  
三机建筑工程(上海)有限公司(中国)  
タイ三機エンジニアリング&コンストラクション社(タイ)  
アクアコンサルト社(オーストリア)



役員 (2022年9月30日現在)

○取締役および監査役

代表取締役会長 長谷川 勉  
代表取締役社長 石田 博一  
取締役 三石 栄司  
工藤 正之  
飯嶋 和明  
福井 博俊  
飯嶋 和明  
福井 博俊  
川辺 善生  
川辺 善生  
山本 幸央  
柏倉 和彦  
河野 圭志  
松田 明彦  
梅田 珠実  
齊藤 一男  
舘 邦彦  
藤田 昇三  
跡見 裕  
江頭 敏明

○執行役員

専務執行役員 三石 栄司  
常務執行役員 工藤 正之  
飯嶋 和明  
福井 博俊  
山中 庸詳  
川辺 善生  
勝野 耕治  
波多野 宏行  
新保 順一  
泉 和男  
太田 伸祐  
門脇 公夫  
成瀬 安計  
本川 忠行  
青木 伸一  
中村 諭史  
野口 哲  
岩崎 恭士  
浅沼 辰夫  
岩井 良博  
寺崎 毅史  
砂田 直人  
山崎 泰弘  
奥野 竜久  
浜坂 順一  
梅沢 昭仁  
中川 勇人  
清水 哲  
濱本 聖次  
五十嵐 一雄  
花洲 公一  
藤江 茂樹  
五十嵐 孝之  
川口 淳二  
高橋 正直  
橋本 直樹  
塚根 隆行

○取締役

常勤監査役

監査役